

北九州工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	体育 A II	
科目基礎情報							
科目番号		0017		科目区分	一般 / 必修		
授業形態				単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		生産デザイン工学科（機械創造システムコース）		対象学年	1		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員		濱田 臣二					
到達目標							
1.各種運動の知識・技能を身につけ、運動の楽しさを味わう。 2.授業を通じてグループワーク、協調性、責任感を身につける。 3.自己の体力、能力を知ることにより生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を知る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		バレーボールのパス・サーブ・アタックがスムーズな動きでできる。		的確なパスとコート内にサーブが入る。		オーバーハンドパスとアンダーハンドパスが的確にできない。	
評価項目2		バスケットボールで的確な状況判断にもとづいたプレーができる。		チームメンバーの動きに応じたパス等ができる。		ボールを持ったら、立ち止まって、相手にすぐにボールを取られる。	
評価項目3		それぞれの体操について正しく理解して、完全に習得して実践できる。		それぞれの体操について理解しているが、習得が不十分である。		それぞれの体操についての理解と習得が不十分である。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、他者との関りを理解しながら明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。					
授業の進め方・方法		各自が役割を理解して、責任感を持ち協調性のある活動を行うことを主体とする。運動の特性や学生の実態に応じて展開する。必要に応じて講義、視聴覚教材も利用する。					
注意点		貴重品の管理を各自でしっかりと行うこと。（状況に応じて担当教員に申し出ること） 学校指定の体操服・シューズを着用すること。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	後期オリエンテーション 体ほぐし運動		後期種目の内容について理解する。 体調を整える運動について理解し習得する。		
		2週	バレーボール リーグ戦 1		チームワークと各自の技能を高める。		
		3週	リーグ戦 2		チームワークと各自の技能を高める。		
		4週	リーグ戦 3		技能の自己評価をしながら、チームの反省を行う。		
		5週	バスケットボール パス練習		パスの種類とそれらの使い方について理解し習得する。		
		6週	シュート練習		セットシュート、ドリブルシュートについて理解し習得する。		
		7週	フェイクを入れたプレー		フェイクの活用について理解し習得する。		
		8週	少数での攻防練習		ディフェンスとオフェンスにおける各自の動き方を理解する。		
	4thQ	9週	簡易ゲーム		簡易ゲームの中でルールを理解し、チームでの協力的態度を身に付ける。		
		10週	ゲームの実際		ゲームにおける戦術を理解し、各自の技能を高める。		
		11週	リーグ戦 1		チームワークと各自の技能を高める。		
		12週	リーグ戦 2		チームワークと各自の技能を高める。		
		13週	リーグ戦 3		チームワークと各自の技能を高める。		
		14週	リーグ戦 4		チームワークと各自の技能を高める。		
		15週	リーグ戦 5		技能の自己評価をしながら、チームの反省を行う。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	チームワークとリーダーシップ	チームワークとリーダーシップ	チーム活動において意見の相違や対立を踏まえて合意形成に向けて行動できる。	1		
				チームの協働関係の形成、維持、向上を促すための行動ができる。	1		
				チーム活動の目標共有を図り、目標達成に向けた行動を実践し、また、チームの協働を促進するための行動ができる。	1		
	基盤的資質・能力	主体性	主体性	自分が果たすべき役割や行動について認識できる。	1		
				自分が果たすべき役割や行動を実践できる。	1		

評価割合

	技術・技能試験	協力の学習				合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0